

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見直し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

| 平成25年6月末 | 平成25年9月末 | 平成25年12月末見直し | 平成26年3月末見直し |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| +7千トン [2254#] (100.3%) | -28千トン [2226#] (98.8%) | -63千トン [2163#] (97.1%) | -43千トン [2120#] (98.0%) |
| 2243千トンの(99.5) | 2205千トンの(99.1) | * | * |

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

| 平成25年6月末 | 平成25年9月末 | 平成25年12月末見直し | 平成26年3月末見直し |
|--|---|---|---|
| 鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は76,400円で前年比+2,700円、前期比では+600円。販売は前年実績を上回っており、収益動向も改善されている。需要見直しにも明るいものを感じられるが、足元の悪さがそれを遮っており、期待したほど市場環境は好転していなかった。また、値上げ転嫁が未達状態で見直し難でもあるため、値上げ玉の入荷と相まって、先々の採算性の確保が危ぶまれていた。 | 鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は77,900円で前年比+6,200円、前期比では+1,500円。中弛み状態から完全に脱し、市況は上伸基調となった。ただ、メーカー値上げの後追いする形で、転嫁という課題が横たわっている。市場では一部品種に仮需が発生し、歯抜けも生じており需給はタイト化していた。需要は分野別で好不調はあるが、建築・土木需要が好調で、総じて明るい状況であった。 | 10月販売実績はリーマンショック以来、最高だったとの声が聞かれた。11月はそれより落ち込んだが、堅調な推移で年末を迎えている。慢性化した人手不足は工事だけでなく運送関連にも影響を及ぼしている。また、メーカー値上げの転嫁未達も課題となっている。だが、それら懸念要因はあるが、建設関連を中心に需要の後押しにより市場環境は良好であり、市況は品種毎に濃淡はあるが上伸基調で推移している。 | 季節的な落込みはあるにしろ需要は堅調さを維持するだろう。延び延びになっている物件の着工、遅延している工事の進捗、さらには消費増税絡みの需要など、増加要因も考えられる。市況はメーカー値上げを反映する動きで、強含み推移だろうが、常に値上げの後追いとなっている点に流通の辛さがある。市中在庫の歯抜けが常態化すれば逼迫感が生じ、品揃えに苦慮するという、ここ何年もなかった市場環境が現出する可能性もある。 |

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

総体として需給はタイト化しており、価格動向はしばらく強含みで推移する。メーカーの引き受け姿勢もシビアで申し込みもカットされている。仕入れ面での窮屈さが出てくるかもしれないが、それを念頭に置いた販売に徹するものと思われる。過去において在庫過少場面より過剰場面の方が長かったことを想起すれば安易な在庫積み増しはしないだろう。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 関西地区では目立った大型物件はないものの、中小物件を中心に荷動きは好調に推移している。また、一方で消費税増税前の駆け込みで、住宅、工場、倉庫などの建て替えや、自動車、家電製品の買い替えの動きも出ている。しかし、相次ぐメーカー値上げによるユーザーへの価格転嫁に流通は苦慮しており、これが喫緊の課題である。来期も民間の中小物件の需要は引き続き堅調に推移するだろう。また、遅れていた公共工事も年度末に向かい本格化してくると思われ、季節的要因はあるものの、期中の需要は堅調に推移し、活発な荷動きに伴い在庫も暫減傾向となる。

(愛知) 建築向けは物件もあることから先々の需要が見込まれる。主要産業である自動車は堅調であるが、生産拠点を他地区に拡散しているため地元の需要に寄与する割合が低くなっている。その他の製造業も押し並べて堅調。ここにきて店売りの切板がようやく価格上昇に転じている。今後の課題はメーカー値上げの未達部分の解消である。